

浦河高校の主権者教育の実践

本校では、現状を適切に理解し、未来に向けて課題を解決していくためには、政治的な教養を育むことが必要であると考え、次のような実践に取り組み、課題を多面的・多角的に考え、自分なりの考えを作っていく「浦高版主権者教育」を行っています。

1) 北海道新聞社出前授業を活用した「参議院選挙」を意識した授業実践

- ・5月15日（木）に北海道新聞苫小牧支社長の木寄美和氏を迎え、参議院議員通常選挙を見据えて選挙の仕組みや北海道選挙区で改選予定を迎える議員の紹介、ここ10年の投票率の推移について、具体的にデータや画像を紹介いただきながら出前授業をしていただきました。生徒は自分が投票するイメージができたと話す生徒もあり、大変有意義な時間となりました。



【出前授業をされる木寄氏】

- ・出前授業の前には、これまで「中学公民」や2年次の「公共」、3年次が現在履修している「政治・経済」、総務省・文科省より発行されている副読本『私たちが拓く日本の未来』を確認し、既習事項を整理しました。

2) 道教委リーフレットを活用した選挙について理解を深める授業実践

- ・『生徒のみなさんへ 選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられました』を使い、既習事項や上記出前授業の内容を振り返るとともに、生徒自らが授業や出前授業を通じた疑問を解決する手段として活用しました。今年度は参議院通常選挙以外にも近隣市町村の首長や議会議員選挙も予定されていることから、生徒は選挙運動や不在者投票等、興味をもってリーフレットを見ていました。

3) 北海道選挙管理委員会日高支部と連携した取組

- ・参議院議員通常選挙を前に実施される選挙啓発へ本校生徒がボランティアとして参加することとなりました。町内のショッピングセンター前で実施され、来店されるお客さんへ選挙啓発を行います。こうしたボランティアへ参加することにより、社会参画への一歩となることを期待しています。

4) 生徒会選挙を浦河町選挙管理委員会と連携して実施する取組

- ・令和6年度に実施した生徒会役員選挙は、浦河町選挙管理委員会と連携した取組で実施し、生徒の政治的教養を育む教育の一助となりました。



- ・体育館で演説会を行った後、左写真に見られる記載台、投票箱を浦河町選挙管理委員会のご協力の下お借りすることができ、議員選出の選挙を体感することができました。
- ・こうした取組により、一層興味・関心をもつよう期待しています。なお、浦河町選挙管理委員会との連携は、毎年実施しています。

【投票所で生徒会役員へ一票】

今後も、主権者の一員である本校生徒により関心を高めることができるよう改善・充実を図りながら取り組んで参ります。